

平成 23 年 6 月 10 日現在

機関番号：34526  
 研究種目：基盤研究 (C)  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19520534  
 研究課題名 (和文) アジアの英語教育におけるリーダーシップ：アジアに適した教材の開発と教員養成  
 研究課題名 (英文) Leadership in English Education in Asia: Development of a textbook in Asian context and teacher training  
 研究代表者  
 Gerald Williams (ジェラルド ウィリアムズ)  
 関西国際大学・教育学部・准教授  
 研究者番号：30341035

## 研究成果の概要 (和文)：

アジアにおける英語教育の課題は、相違点よりも類似点の方が多い。効果的な言語教育を行うためには教員の役割は大きく、それゆえ、十分な教員養成トレーニングが行うことは大変重要である。本研究では、アジア諸国の英語教育の現場の観察、教員へのインタビューを通して発見した共通の課題を整理し、教員トレーニングに効果的な、現職の教員が自分の授業目標の達成を自ら振り返るためのツールを作成し、また、アジアの学生達のニーズにあった教材も作成した。これらの成果をアジア諸国でのワークショップを通してその普及に努めた。

## 研究成果の概要 (英文)：

English teaching and learning within Asia is more similar than different. The role of the teacher is the most important point of effective language learning. Therefore, adequate teacher education is vital. For working teachers self-assessment tools to self-monitor for goal achievement are useful. Also, materials aimed at Asian students are also necessary to meet the needs of this region. This research has developed and introduced a self-assessment tool through many seminars, workshops and presentations. An Asian-content textbook integrating the four skills is completed.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000円	180,000円	780,000円
2008年度	1,100,000円	330,000円	1,430,000円
2009年度	500,000円	150,000円	650,000円
2010年度	700,000円	210,000円	910,000円
年度			
総計	2,900,000円	870,000円	3,770,000円

研究分野：英語教育、教材開発

科研費の分科・細目：外国語教育・英語教育

キーワード：英語教育、アジア、教員相互サポート・評価、COLT、教材開発

## 1. 研究開始当初の背景

本研究代表者はここ数年アジア諸国の英語教育の現状の研究を行うと同時に、アジアの各地で行われている英語教員の指導力向

上を目指すワークショップに講師として招待され、教員に効果的なアクティビティーや教材開発についての指導を行っている。このようにアジアの英語教育現場に何度も足を

運び、現地教員の悩みに直接触れた経験から、日本にもアジア諸国にも共通してある1つの問題を発見した。それは、日本もアジア諸国も、学校の英語教育が教員中心、文法中心の授業から、学生参加型の会話中心の授業に移行する方針があるが、実際にその方針通りには授業が進んでいないということである。例えばベトナム南部では、政府が上記の様な教育方針を打ち出しているものの、方針が実行されていないのだが、そこには主に3つの原因があると本研究代表者は分析している。

- 1) 標準テストがまだ重視されている
- 2) 教員の学んだ教授法は、上級者向けの場合が多く、実際の学生には適用しにくい
- 3) 教員の労働条件が整っておらず、授業の準備に費やすことができる時間が不十分である

このように複合的な要因があるものの、問題点の一つ一つに向き合い、解決していくことが重要である。例えば1)の標準テスト偏重には、英語文化圏で使用される英語のみを正しいとしてしまうという問題が含まれている。実際に英語教育に使用される教材の多くが、英語文化圏で起こる会話場面や会話内容に基づいて作成されている。Richards (2006)も、教材使用国の文化に対する知識・配慮の無い(例えば日本のレストラン場面であるのに主な飲み物がたいてい‘wine’であったり、日本での道順説明場面であるのに、京都以外ではあまり見られない‘block’を使用するといった具合に)教材が多々見られることを指摘している。英語学習者の実際の目標は、英語圏に永住し英語母語話者と常時英語で会話することよりも、むしろ自国文化圏の非英語母語話者とのコミュニケーションに英語を使用することにある場合が多いと思われる。こういった点から鑑みて、現存の教材には、アジアにおけるコミュニケーションや学習者の目標に合致しない箇所を含むものがあり、改良の余地があるといえよう。また、ii)の教授法の問題に関しては、教授法を実際の授業レベルで実践するための教員自身の知識・経験が不足していることが考えられる。教員の指導法にバリエーションが無い原因の一つは、教員間で指導法についての意見交換が行える場や相互授業チェックの体制が整っていないことがあげられる。

## 2. 研究の目的

(1) アジアの英語授業内活動の見直し：教育現場・目標に適した活動の作成・選択・評価能力を持つ教員の養成

日本、ベトナム、タイの教員が使用している教材および授業活動の実施状況を観察・調査する。次に、教員へのインタビューも行い、活動・教材についての意見を聞く。そこから、自国文化圏で英語を使用した場면을豊富に

含み、教員にとっても使用し易く、教育目的・目標に適した活動を、選択・評価できる力を持つよう教員を養成する。その成果は広く一般にも伝わるよう、ワークショップ等でも活動の評価法等を公開する。

## (2) 教員間相互サポートネットワークの構築

学内・地域内の教員がお互いの授業を相互に観察し、評価し合う積極的なネットワークをアジア諸国において構築する。しかし、お互いを評価するには正当な根拠・基準が必要である。そこで the Communicative Orientation Language Teaching (COLT; (Spada and Fröhlich,1995))という授業観察法等を参考に授業の観察を行う。本研究独自の評価基準も作成し、教員がそれらの基準に従って自分自身や、仲間の教員の授業を観察・評価する方法を学び、日常的な自己評価の習慣や授業改善への意識向上につながることを目標としている。本研究メンバーが実際の指導力のためのワークショップをアジアの国々で行っていく。

## 3. 研究の方法

ベトナム、タイ、韓国、日本での授業観察とインタビューを実施し、アジアに於ける共通の問題点を整理し、各国で教員トレーニングのためのワークショップを継続的に実施してきた。ワークショップでのそれぞれの地域の英語教育をともに考える人的ネットワーク作りと、教員トレーニングの実施してきた。研究成果として本研究グループで作成した教員サポートツールとアジアのコンテキストにあった教材の普及により、よりよい英語教育を提供できる教員の養成を目指した。

## 4. 研究成果

アジア諸国の学校、ランゲージスクール等で英語教員とした働く人達へのインタビュー、授業観察、使用教材の分析を通して、それぞれの国で抱えている問題は異なるものの、次のような共通の問題点があることが分かった。1) 授業準備や振り返りによる自己分析、自己評価をする時間が十分確保できない場合が多い。2) 教員は自らの教育力を向上させたいという強い意志を持っているものの、時間・費用的な制限があり、十分な研修を受けることができない環境である。3) その結果、有効的な授業改善法を見いだすことができず、必ずしも学習者の文化に即さない輸入した英語教材や文法・訳読式の教科書を使用し、教科書の指示のまま授業をしている教員が多い。

このような現状を改善するためには、コミュニケーションアプローチを用いた効果的な授業ができるようになるために各教員が自らの授業を分析していけるツールが必要で

ある。そして、そのツールは誰もが簡単に仕えかつ効果的でなければならない。その必要性を考え、本研究グループでは、教員が授業目標を立て、自らまたは同僚同士で評価しあえる自己評価ツール(TSAG: Teacher Self Assessment Guide)を作成し、タイ、ベトナム、韓国、日本でのワークショップを通してその普及に取り組んだ。ワークショップでは、アジア社会における英語教育の問題についてともに考え、共通する問題にどのように取り組んでいくかについて議論し、また、研究成果として作成した、教員の自己評価ツール(TSAG)の活用法について話し合った。継続的にワークショップを実施することによって、参加者からの意見を取り入れながらより使いやすく、効果的なものに改良した。また、また、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングなどそれぞれの分野で伸ばしていくべき能力のリスト作成などにも取り組み、授業をしっかりと計画しその成果を振り返るためのツールとして TSAG を完成させた。また、多くの参加者が専門家の指導を求めてワークショップに参加しているが、それぞれの教育現場での問題を解決するのは、外部の専門家ではなく、同じ教育現場、地域で教える教員間での意見交換、互いの授業を評価しあうネットワーク作りであることも、ワークショップを通して伝えてきた。

また、教材に関しても、アジアの学生達が学ぶ文脈にあった教材の作成に取り組んだ。ワークショップ等での意見交換を基に、改良を加え、アジアのテーマを扱った教材を作成し、今後この教材の普及にも努めていく。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① Keiko Yoshida, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Hector Luk, 「ベトナムにおける英語授業観察」、関西国際大学研究紀要、第9巻、2008年、33-44、査読無
- ② Jonathan Aliponga, Hector Luk, Gerald Williams, Keiko Yoshida, “Teacher Education and Materials Development in an Asian context”、JALT 2007 International Conference Proceedings、2008年、1233-1240、査読：有
- ③ Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Helping teachers reflect on teaching”、JALT 2008 International Conference Proceedings、2009年、35-43、査読：有
- ④ Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan

Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Teacher Development in an Asian Context”、ACE 2009 Proceedings、2009年、1032-1038、査読：有

- ⑤ Jonathan Aliponga, Gerald Williams, Midori Sasaki “Using the Communicative Orientation of Language Teaching Observation Scheme (COLT) for Classroom Observations”、ACE 2009 Proceedings、2009年、510-529、査読：有

[学会発表] (計 5 件)

- ① Gerald Williams, Keiko Yoshida, Hector Luk, Jonathan Aliponga, “Materials and teacher development in Asian context”、JALT 2007 International Conference、2007年11月25日、国立オリンピック記念青少年総合センター
- ② Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Asian based teacher development”、JALT 2008 International Conference、2008年11月2日、国立オリンピック記念青少年総合センター
- ③ Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Teacher Development in an Asian Context”、ACE 2009、2009年10月25日、大阪ラマダホテル
- ④ Jonathan Aliponga, Gerald Williams, Midori Sasaki “Using the Communicative Orientation of Language Teaching Observation Scheme (COLT) for Classroom Observations”、ACE 2009、2009年10月24日、大阪ラマダホテル
- ⑤ Gerald Williams, Hector Luk, Midori Sasaki, “I Want My Student to Be Better in English but . . .”, Cam TESOAL 2011、2011年2月27日、プノンペン カンボジア

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

研究成果集

- ① 研究成果集 (CD 版) “Leadership in English Education in Asia: Material development and teacher training”、2011年3月

ワークショップ

- ① 関西国際大学コミュニケーション研究所 第7回英語教育セミナー、関西国際大学、

2008年2月9日

- ② ‘Workshop on English Education’、  
Vietnam National University,  
University of Social Sciences and  
Humanities, Ho Chi Minh City, Vietnam,  
2008年9月9日
- ③ 関西国際大学コミュニケーション研究  
所第8回英語教育セミナー、関西国際大  
学、2010年2月6日
- ④ ‘Workshop on English Education’、Viet  
Ahn School, Ho Chi Minh City, Vietnam,  
2010年3月6,7日
- ⑤ ‘Workshop on English Education’、  
Assumption University, English  
Language Institute, Bangkok, Thailand,  
2010年3月10日
- ⑥ Korea TESOL Busan Regional workshop,  
ESS Foreign Language Institute, Busan  
Korea, 2010年5月22日
- ⑦ 関西国際大学コミュニケーション研究所  
第9回英語教育セミナー、関西国際大学、  
2010年7月31日
- ⑧ Workshop on English Education’、  
Assumption University, English  
Language Institute, Bangkok, Thailand,  
2010年2月9日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

**Gerald Williams** (ジェラルド ウィリアムズ)  
関西国際大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30341035

### (2) 研究分担者

佐々木緑 (SASAKI MIDORI)  
関西国際大学・教育学部・准教授  
研究者番号：20310766

### 研究分担者

**Jonathan Aliponga** (ジョナサン アリポング)  
関西国際大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50388873

### (3) 研究協力者

Hector Luk (ヘクター ルック)  
関西学院大学・講師

### 研究協力者

吉田 桂子 (YOSHIDA KEIKO)  
甲南大学・講師